

## 12月議会 一般質問

①学校再編後のコミュニティ運営 ②地域運営組織について質問しました！



詳しくは動画配信でも  
ご覧いただけます



### 1 学校再編後のコミュニティ運営について

「館山市立小中学校再編計画」が昨年11月に策定されました。今後、小中学校は半数以下に減ることとなります。

市内の出生数が200人を下回る急速な少子化に対し、複式学級を解消し、安房初の小規模特認校や不登校児支援施設の設置など現代の教育ニーズに寄り添っている点は大きく評価されると思います。館山市の教育環境を目指して移住者世帯が増加するよう情報発信にも力をいれねばなりません。

一方、元来日本の地域は学校を中心にコミュニティが形成されてきました。学校の統廃合は致し方ないとしても、地域コミュニティの希薄化が加速しないかと危惧する声も多くあります。

H24年に休校となった富崎小では、その後世帯数が約18%、人口は約31%減少しました。市は区長会やコミュニティ委員会に地域運営を委ねているという回答がありましたが、市の積極的関与なく

して何らかの方策が生まれるとは考えづらいものです。

確かに、価値観が多様化する現代ですが、コミュニティは災害時には命や財産を守るインフラの役割も果たします。何より、生き生きと幸福度の高い暮らし、高齢者の健康維持、犯罪の抑止、子の成長を見守る面でも、地域の平時のつながりは市民福祉の中核をなしています。

### 2 地域運営組織について

国は、人口減少や高齢化が著しい地域でも、必要な生活サービス機能を維持し、地域における仕事や収入を確保するため、住民自ら将来プランを策定し、地域課題の解決に向けた取組を行う「地域運営組織」の形成を促しています。おおむね旧小学校区をエリアとする広域団体です。

R5年度現在、874市町村で7710団体の地域運営組織が形成されており、全国的に増加傾向にあります。

ポイントは「今困っていることは何か」「10年、20年後この地域がどうあってほしいか」という住民一人一人の素朴な問いを掘り起こしていくことです。ここには、ファシリテーションの役割を担う人材育成も必要ですし、地域おこし協力隊や集落支援員の制度、自治体や国の支援を積極的に活用している組織が多く見受けられます。

もちろん、都市部と郊外で地域課題には違いがあります。例えば郊外では移動支援、買

い物支援といった高齢者の課題が深刻です。都市部でも独居高齢者の増加、各種役職のなり手不足、伝統行事の継続、防災などさまざまな課題と向き合っている人がいます。

行政も民間も関係団体が広域で協議して、課題解決に向け、市町村や国のチャンネルをできる限り活用して取り組むのが地域運営組織です。

議会では「地域にその気があれば、全力でサポートする」という回答がありました。もちろん全域で同時に進めることは難しいですが、関心のある地域から取り組み、やってみた経過を共有していくプロセスが好ましいと感じています。市と住民をつなぐ「中間支援」も全国的に役割が増しています。中間支援の取り組みは、住民の声を聞くという議員活動の基本と親和性が高く、この一年は自ら動きながら、発信もしていきたいと思えます。



昨年1月から月一で開催してきた、民間の有志や市の若手職員合同の勉強会「公民連携ゼミ館山」が一年を迎えました。今年一発目は、まさに地域運営組織と中間支援をテーマに私が登壇しました。内容をnoteにまとめましたので、よかったらご一読ください。

